

郡上市 洪水ハザードマップ

2022年3月作成

発行 郡上市総務部総務課

〒501-4297 岐阜県郡上市八幡町島谷 228 番地
電話：0575-67-1832

洪水ハザードマップは、洪水などの水害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。郡上市洪水ハザードマップは、河川毎に作成しており、50年～100年に1回程度発生する大雨を想定した「L1版」と1,000年に1回程度発生する大雨（想定最大規模）を想定した「L2版」の2種類あります。洪水ハザードマップや別で配布している土砂災害ハザードマップを使って、自宅などの災害リスクを確認し、災害に備えましょう。また、自主防災会での防災訓練等でもハザードマップをご活用ください。

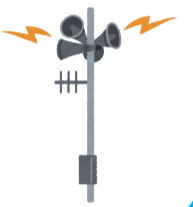
警戒レベルに応じた皆さんがとるべき避難行動

市が警戒レベル3や4を発令したら、危険な場所から必ず避難しましょう。

警戒レベル	とるべき行動	避難情報等	防災気象情報 (警戒レベル相当情報)	基準水位
5	命の危険 直ちに安全確保！：すでに安全な避難が出来ず、命が危険な状況。今いる場所よりも安全な場所へ移動する等、身の安全を確保してください。	緊急安全確保 (市が発令)	レベル5相当 大雨特別警報等	氾濫の発生
<警戒レベル4までに必ず避難！>				
4	危険な場所から全員避難（立退き避難）：避難所や安全な親戚・知人宅等に今すぐ避難してください。	避難指示 (市が発令)	レベル4相当 土砂災害警戒情報 特加(危険度分布) ：うす紫	氾濫危険水位
3	危険な場所から高齢者等は避難：避難に時間がかかる人やその支援者は、避難所や安全な親戚・知人宅等に速やかに避難してください。それ以外の人も、不要不急の外出を控え、避難の準備を整えるとともに、必要に応じ、自主的に避難してください。	高齢者等避難 (市が発令)	レベル3相当 大雨・洪水警報 特加(危険度分布)：赤	避難判断水位
2	自らの避難行動を確認：ハザードマップ等により自宅の災害リスクを再確認するとともに、避難先、避難経路や避難のタイミングを再確認しましょう。	大雨・洪水注意報 (気象庁が発表)	レベル2相当 特加(危険度分布)：黄	
1	災害への心構えを高める：安全な親戚・知人宅等へ避難するための調整や非常持出品・備蓄品の補充など、災害に備えましょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)		

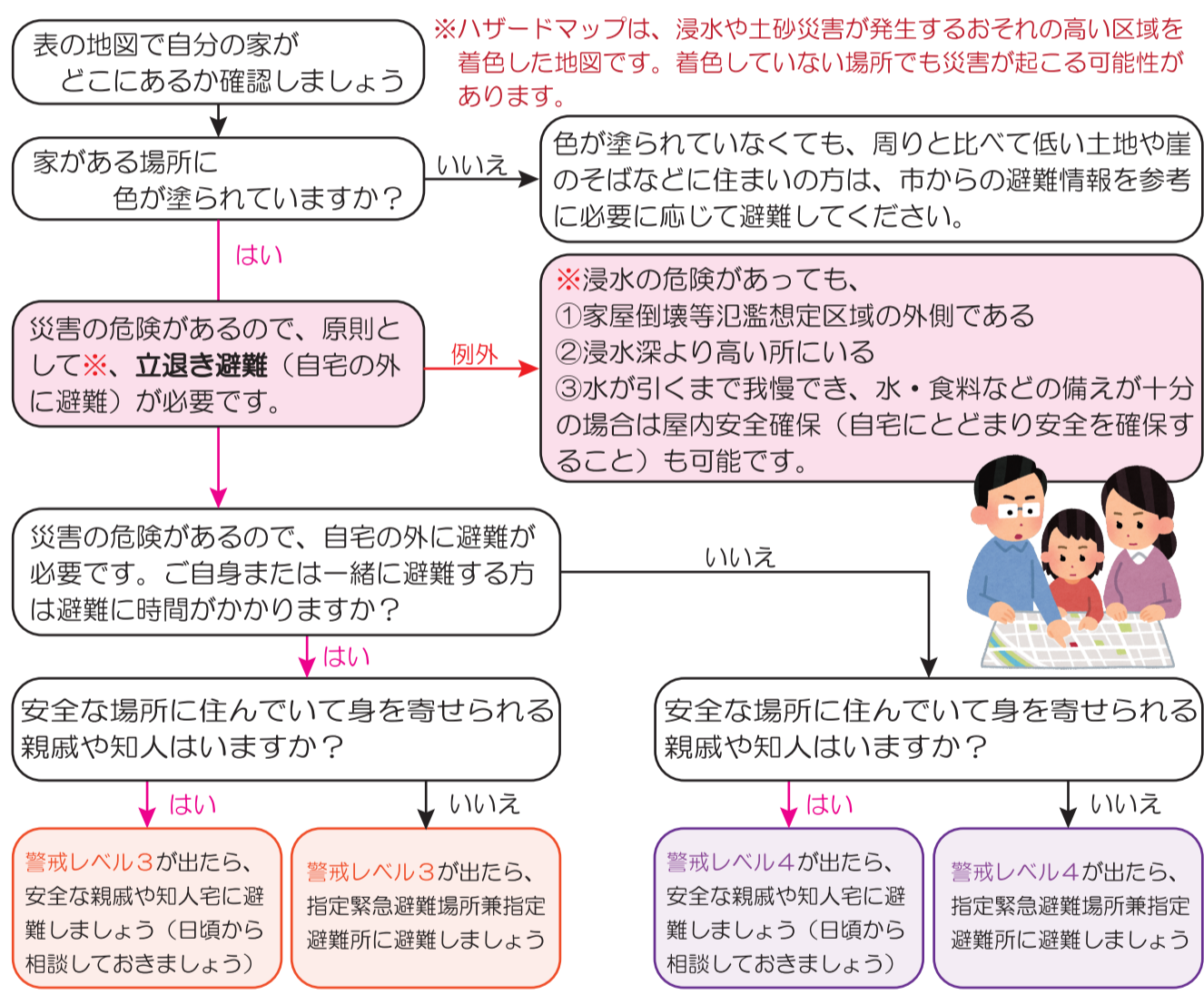
- 「避難」とは「難」を「避」けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難所に行く必要はありません。
- 避難先は避難所だけではなく、安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

※防災気象情報は、皆さんが自主的に避難行動をとるために参考となる状況情報です。気象庁、県等が発表します。



避難行動判定フロー

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、災害リスクと取るべき行動を平時に確認しましょう。



浸水深の目安

5m以上	3階以上が浸水	家屋が水没するおそれのある区域のため、 早期の立退き避難・分散避難が必要です。
3m～5m	2階浸水	
0.5m～3m	床上浸水	床上・床下浸水が想定されることから 立退き避難・分散避難が望ましい が、浸水時に想定される状況を踏まえて、自らの判断により垂直避難でも可です。
0～0.5m	1階床下浸水	
浸水想定なし		想定以上の降雨もあるので注意してください。

※夜間の避難、浸水の深さがひざ上の時の避難は危険です。

状況に応じた避難行動

危険が間近に迫ってからの無理な避難行動は避け、早めに避難しましょう。

○立退き避難：その場を立退き、近隣の少しでも安全な場所に一時的に避難すること。避難行動の基本で「水平避難」とも言います。

○垂直避難：自宅・施設等の浸水しない上階へ避難すること。「屋内安全確保」の一つ。

○分散避難：安全な親戚・知人宅などの家を含め避難所以外へ立退き避難すること。感染症の感染リスクを下げるために有効です。



雨の強さと降り方

猛烈な雨	80mm/h以上	息苦しくなるような圧迫感を感じる
非常に激しい雨	50～80mm/h	滝のように降る 傘が役に立たない
激しい雨	30～50mm/h	バケツをひっくり返したように降る 道路が川のようになる
強い雨	20～30mm/h	どしゃぶりの雨 傘をさしていてもぬれる
やや強い雨	10～20mm/h	ザーザーと降る 話し声が良く聞き取れない

避難所の種別

一時(いっとき)避難所	住民が組織的避難を行うため一時的に集合・待機する場所です。当該施設の立地状況及び災害の種別や状況に応じて利用してください。
指定緊急避難場所	災害が発生し、又は発生するおそれがあるときにその危険から逃れるために避難する施設や場所です。
指定緊急避難場所兼指定避難所	災害が発生し、又は発生するおそれがあるときにその危険から逃れるために避難する施設や場所です。また、災害により住宅を失った場合等において一定期間避難生活をする施設です。

※洪水時に利用できない可能性がある避難施設には×が付してあります（氾濫想定河川以外の河川による浸水想定も含む）。

避難時の心構え

- 非常持出品の準備：避難所の備蓄品には限りがありますので、避難に必要なもの（食料や水分、感染症対策用品など）は、自分で持ち込みましょう。持病をお持ちの方は、お薬を忘れず。
- 避難先・避難ルートの確認：浸水に対して安全な避難先と避難ルートを、平時から確認しておきましょう。避難先は避難所だけではなく、安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。
- 早めの避難：浸水してからの自宅外避難は危険です。防災気象情報や河川水位を確認し、身の危険を感じたら自主的に避難しましょう。
- 隣近所への呼びかけ：単独での避難は、思わぬ事態にあったときに危険です。避難する前に隣近所に声をかけ、2人以上での避難を心がけましょう。
- 防災訓練への参加：自主防災会などが実施する防災訓練に参加し、ハザードマップを使い災害時のシミュレーションをしておきましょう。
- 地域で協力を：災害発生時の避難に配慮が必要な人達があります。被害を減らすために、地域での支援体制づくりに取り組みましょう。

